

四季報

設計協会東北支部青年部活動 NEWS
～ 春 号 ～ 2006年3月

発行/(社)福島県建築設計協会東北支部青年部 情報委員会
所在地/〒960-8043 福島市中町4-20 みんなゆビル
電話 (024) 521-4033 FAX (024) 521-5087

特集 12月 (社)福島県建築設計協会 50周年記念事業

「住まいとまちの安全」フォーラム 報告

去る平成17年12月10日(土)。コラッセふくしまにおいて、当青年部が主催する『住まいとまちの安全』フォーラムが行われました。「ふくしま協働のまちづくり事業」として福島市にご協力を頂きながら開催されたこのイベント。天候には恵まれませんでした。数多くの方にご来場頂き成功のうちに幕を閉じることができました。

『地震災害への備えは大丈夫?』というサブテーマを設け、一般の方々に防災意識の啓発と地震災害等に対する安全対策の推進を促す目的で行われたフォーラムでしたが、開催から数ヶ月を経た現在、住まいとまちの安全に対する意識はどのように変化しているのでしょうか?

『災害は忘れた頃にやってくる』という格言もあります。今回の「四季報」では、特集としてフォーラムの内容を振り返り、今一度安全に対する意識を再確認したいと思います。



たくさんの方にご来場いただきました

□事業名

「住まいとまちの安全」フォーラム …地震災害への備えは大丈夫?…

□事業目的

- (1)防災意識の啓発と住まいとまちの安全対策の推進
地震災害に対する市民の意識向上を図り、合わせて安全な住まいづくりと地域づくりを考えることで、安全・安心なまちづくりの推進に寄与することを目的とする。
- (2)多様な視点から地震災害対策を探る
地震災害の現状を学び、自身に強い住まいづくり・地域づくりを始め、非難・救助・復旧・災害ボランティア等についても考える機会とする。

□実施プログラム

<第1部 親子ワークショップ>

『力のデザイン』 ～座ってこわれないイスをつくってみよう～

<第2部 シンポジウム>

- Part1 基調講演 講師：長島忠美氏(衆議院議員・旧新潟県山古志村村長)
テーマ：『住まいとまちの安全』 ～新潟中越地震災害の実情を語る～
- Part2 パネルディスカッション
テーマ：『地震とまちの安全を考える』 ～地震災害への備えは大丈夫?～

<第1部 親子ワークショップ>

テーマ：『力のデザイン』

～座ってこわれないイスをつくってみよう～

<親子ワークショップ>という名前を冠したフォーラムの第1部では、一般の親子の参加者を募り、厚紙やビニールテープといったありふれた材料を使ってイスを作製。どのように作ればきちんと座れるイスが作れるか、座ったときに力がどのように加わっていくのかということを実験に置き換えて考えてもらい、手を動かして実際に体験してもらうという内容となりました。

講師には(社)霊山こどもの村管理会の轡田倉満氏をお迎えし、子供たちの興味を惹く面白く分かりやすい説明を随時行って頂きました。



轡田氏の説明に聞き入る子供たち

実際の作業時間は1時間強という短い時間の中で、果たして本当に座れるイスができるのだろうか? という不安を多少なりとも抱きながら、子供たちの作業を見守って行きました。

<ユニバーサルデザインパネル展示>

今回のフォーラムに併せ、政策委員会内で研究が進められていたユニバーサルデザイン(UD)に関する資料をまとめたパネルが会場内に展示されました。

平成16年度の「UDフォーラム」より継続的に行われてきたUDに対する取り組みですが、今回はフォーラムの趣旨に沿った「住まい」に関するUDの事例・内容を紹介します。今後、公共の場だけではなく一般住宅への広がりも見せていくであろうUDについて、良い案内ができたのではないかと思います。

しかし、いざ始めてみると子供たちはとても積極的に作業に取り組み、材料や道具をいくつも持ってきたり、「お母さん、これ持って!」と指示を出したりと大忙し。中にはお父さん以上に真剣になっているお父さんもあり、和やかでありつつも熱気を帯びた作業風景となりました。



真剣に作業に取り組む参加者の皆さん

そして最後に、それぞれ作りあげたイスをみんなの前で発表。当初の不安をよそに、ほとんどの人がきちんと座れるイスを作ることができたのは、大変嬉しい結果でした。



ちゃんと座れるかな?～



会場内に展示されたUDパネル

<第2部 シンポジウム>

Part1 基調講演

講師：長島忠美氏

(衆議院議員・旧新潟県山古志村村長)

テーマ『住まいとまちの安全』

～新潟中越地震災害の実情を語る～

「午後5時56分。一瞬にして故郷が壊れてしまいました・・・。」

第2部 Part1としてご講演いただいた、長島忠美氏の言葉です。平成16年10月に起きた新潟中越地震をその中心で体験し、陣頭に立って復旧活動を続けていらっしゃる長島氏にお話を頂くことで、実際被災した者にしか分からない現地の状況・復旧活動のあり方を知り、今後起こるであろう宮城県沖大地震に対する注意を喚起しようと企画されたものでした。



自らの体験を交えてお話くださった長島氏

村内の状況すら満足に把握できない地震直後。助けを求め連絡すらままならない混乱状態。そんな中でも手を取り合い、必死に生きようとする被災者たち——。その内容に、目頭を押さえず泣く声も客席から聞こえてきました。そんな辛い体験をしながらも、長島氏は私たちにこう仰いました。

「地震が奪っていったものはたくさんあります。でも、もし皆さんのまちに地震が来たら、失ってほしくないものが1つあります。それは、『人が人を信頼するということ』です。そして、『素直に感謝をするありがとうという心』——。

このことだけは失ってほしくないんです。」

「まちづくりの基本は『道路と建物の耐震化』と『人の心のネットワーク』。今回のフォーラムに相応しい貴重なお言葉を頂くことができた、Part1の基調講演でした。

Part2 パネルディスカッション

テーマ『地震とまちの安全を考える』

～地震災害への備えは大丈夫？～

Part2では、講演をいただいた長島氏、福島市市民部長の山田氏、福島市消防本部予防課主幹の佐藤氏、当設計協会理事で建築家の田中氏をお迎えし、当青年部会長の鈴木がコーディネーターとなりパネルディスカッションが行われました。



パネルディスカッションの様子

それぞれ専門の立場からの貴重なご意見を頂くことができました。以下、皆さんのまとめの言葉の一部を抜粋いたします。

長島氏：『協働のまちづくり』の中では耐震偽装事件のようなことは生まれ得ない。そのことを知りながら、そんなまちを創ってほしいと願います。」

山田氏：「地域づくりは行政だけでできるものではありません。市民が一緒になって取り組むからこそ、これからの分権社会が乗り切れるというふうに信じています。」

佐藤氏：「まず大事なことは、自分の命を守ること。その後、近くにいる方を助けるということが出てくると思います。これは自主防災組織としての活動の一環でしょうし、防災の基本であると思います。」

田中氏：「緊急災害時の食料・寝具等の備品のストックはまだ不十分であり、地域の小中学校等に常時ストック、入れ替えをする必要があると考えます。また、交通手段が失われたときの対策も必要でしょう。」

平成17年度青年部活動一覧

5月13日 平成17年度 第4回青年部通常総会 開催

6月23日 平成17年度 県北支部青年部6月例会開催（講習会）

(株)アポロガス ほっとリビング様より「トーヨーキッチン・太陽光発電について」
東陶機器株式会社 東北支店 市場開発課様より「パブリックバリアフリーセミナー」

6月26日 ふくしま協働のまちづくり事業(コラボふくしま)の公開審査結果 発表

8月27日 平成17年度 県北支部青年部研修会(新潟県) 開催

潟博物館・豊栄市立図書館・朱鷺メッセ・新潟市芸術文化ホール

9月9・10日 設計協会県北支部企画委員会主催「愛・地球博」視察見学会 参加

9月29日 設計協会県北支部青年部が「古民家マップ」でテレビ出演！

12月 (社)福島県建築設計協会 50周年記念事業 「住まいとまちの安全」フォーラム 開催

2月16日 平成17年度 県北支部青年部2月例会開催（講習会）

社団法人福島県エルピーガス協会青年部 福島Gライン研究会様より
「最近のLPガス事情について」

実際に会場に最新の機器であるガラストップコンロや高効率給湯器のエコジョーズなどを持ち込んでいただき、最近のLPガス事情も含めて丁寧で分かりやすいお話を聞くことができました。

平成17年度事業総括 — 各委員会より —

<情報委員会>

各部員へのメールマガジンの配信や青年部会報「四季報」の発行など、情報委員会として1年を通じて青年部内外へ情報の発信ができたのではないかと思います。HPに関しては基本となる部分が出来上がり、次年度に一般公開をする予定です。今後はこちらも充実させていきますので、どうぞご期待ください。

おの建築設計事務所
小野 紀章

<研修委員会>

新潟への研修旅行や「住まいとまちの安全」フォーラムの開催など、平成17年度は内容の濃い事業がたくさんあり、とても充実した1年となりました。次年度もより良い事業を成功させたいと思っております。今後も頑張りたいと思っておりますので、皆様宜しくお祈りいたします。

(有)桂建築設計事務所
大内 一弘

<政策委員会>

本年度、福島市との協働で行なわれました「住まいとまちの安全」フォーラムが無事開催することができ、そこでユニバーサルデザイン(UD)のパネルを展示できましたことを、大変嬉しく思います。今後も更に研究を重ね、建築設計の仕事に携わるものとして、さらに視野を広げていきたいと思っております。

(株)小島建築設計事務所
内山 勇二

平成17年度事業総括 — 部会長：(株)杜設計 鈴木 宏幸 —

はじめに、関係各位の皆様のご支援とご協力を頂きながら、平成17年度青年部の全ての事業が無事終わることができ、大変感謝申し上げます。平成17年度の活動を振り返りますと、会員一人ひとりが自信を持って事業に取り組んだ1年であったと感じております。「住まいとまちの安全」フォーラムや、平成16年に作成した「古民家マップ」が大きな評価を得て報道機関から取材を受けるなど、より多くの人に情報を発信できたことも大変嬉しく思っております。次年度以降もより積極的な活動を行っていきますので、皆様どうぞ宜しくお祈り致します。